

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。 **カシャ!!**
 情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



地鎮の儀で斎鎌を行う杉本市長

工事の無事と安全を願う

■相良地区放射線防護施設建設工事 安全祈願祭

相良地区放射線防護施設建設工事の安全祈願祭が7月21日、建設予定地(須々木区)で執り行われ、関係者が工事の無事と安全を祈願しました。

この施設は、鉄筋コンクリート造2階建、延床面積約1,400平方メートルで、原子力災害時に長距離避難が困難な要配慮者とその介助者が、一時的に避難する施設です。平常時には、打ち合わせや会合などで利用することもできます。

今後、令和4年3月の完成を目指し、着実に工事を進めていきます。

待ちに待った海開きに歓声

■海水浴場海開き

7月16日にさがらサンビーチ、静波海水浴場で海開きが行われ、各海水浴場ではシーズン中の安全を祈願する神事が海の家で行われました。

さがらサンビーチでは、水難者供養祭と安全祈願神事が行われた後、相良保育園の年長組12人による初泳ぎが行われました。園児らは、大きな歓声を上げながら一斉に海へと走り出し、来た波をジャンプしたり、海水をかけあつたりと、待ちに待った夏の海を満喫しました。

遊泳期間は8月31日(木)までとなっています。



さがらサンビーチで初泳ぎを楽しんだ相良保育園の園児たち

ウォーリーのキャラクターがいっぱい

■図書交流館いこつとでウォーリーをさがせ!

図書交流館いこつとで7月1日から8月31日まで、開館記念イベント「図書交流館いこつとでウォーリーをさがせ!」が開催されています。

これは、館内のあちこちに設置されたキーワードを解答用紙にすべて記入するとプレゼントがもらえる企画です。また館内には絵本『ウォーリーをさがせ!』の特集展示やフォトスポット、お絵描きコーナーも設置されています。

参加した子どもたちは、友だちなどと協力しながら館内のキーワードを探し回っていました。



キーワードを見つけ、解答用紙に記入する児童



古代の道具で火おこしに挑戦する児童

古代の苦労を体験

■火起こし体験

牧之原小学校6年生16人が7月16日、火起こし体験を行いました。

これは、古代体験授業の一環として毎年行われているものです。児童らは市発掘調査学芸員の松下善和さんから指導を受けた後、古代道具を使いみんなで協力し合って火起こしに挑戦。慣れない道具に苦労しながらも、火がついた瞬間は笑顔と歓声が沸きました。

起こした火は、その後、飯ごう炊きに使い、みんなで食事を楽しみました。



出品されたお茶の香りや手触り確かめる児童

見て触って飲んでお茶を堪能

■一番茶品評会・お茶教室

市認定農業者協議会の一番茶品評会が7月14日、相良総合センターい〜らで開催されました。

市内協議会員の茶工場から58点の一番茶が出品され、外観や水色、香気、滋味の4項目について審査。最優秀賞には、戸塚勇太さん(萩間支部)のお茶が選ばれました。

また、子どもたちにも牧之原茶に親しみをもってもらおうと、お茶教室も開催。品評会に招待された小学生482人は、審査会場の見学やお茶クイズ、淹れ方の実践などでお茶について学びました。

サーフボードの上に立てたよ!

■サーフィン教室

勝間田小学校のプールで7月15日、水泳の時間を利用してサーフィン教室が開催され、5・6年生約40人が参加しました。

この教室は、子どもたちにサーフィンに親しんでもらおうと地元サーファーらが講師を務め、初めて開催したものです。児童は講師の皆さんのサポートを受けながら、サーフボードに乗ってプールを往復。続けるうちに徐々にボードの上に立てるようになった児童は「立ててうれしかった。めちゃくちゃ楽しい」と笑顔で話しました。



サポートを受けながらサーフボードの上に立つ児童

伝統の塩づくりに挑戦!

■塩づくり体験

萩間小学校の6年生19人が6月28日、相良海岸にある、さがら塩づくり体験工房「茶々塩屋敷」で塩づくり体験をしました。

児童は市生涯学習ボランティア団体「スマイル」の皆さんの指導を受け、伝統の塩づくりに挑戦。「マンガ」や「モッコウ」などといった慣れない道具に苦労しながらも、みんなで協力してたくさん塩を作りました。参加した児童は「伝統的なやり方は大変だったけど、みんなで協力してやれてよかった」と話しました。



協力して砂浜を耕す児童



萩間川の水のバックテストの結果を見本と見比べる児童

水を大切に使う

■水の出前講座

相良小学校4年生77人が7月8日、「水の出前講座」に参加しました。

この講座は、講師に県環境局職員を招いて行われたものです。児童はまず水の循環について学んだ後、萩間川の水が生き物にとって適している水かどうか「CODバックテスト」で確認したり、蛇口から1分間に出る水の量を実際に量ったりしました。こうした体験を通して、水を汚さないため、水を無駄にしないためには何ができるかについて考えました。

7月号の「まちのわだい」の記事「花火教室」(15頁左上)について、内容に誤りがありました。訂正しお詫びします。

▶写真キャプション【誤】児童 →【正】園児 ▶本文1行目【誤】菅山小学校 →【正】菅山保育園